

尚綱大学

教育情報及び財務情報の公表について

学校法人尚綱学園は、公共性の高い法人としての社会的責任を踏まえ、情報公開に取り組んでいます。当学園に対する皆様方のご理解とご協力を得ることを目的として、下記の基本情報を公開いたします。

1. 教育研究上の基礎的な情報

- (1) 学部、学科及びコースの名称
- (2) 各学部、学科の教育研究上の目的
- (3) 専任教員数等
- (4) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
- (5) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
- (6) 教材購入費

2. 修学上の情報等

- (1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績
- (2) 3つのポリシー
 - ①入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）
 - ②教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
 - ③学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
- (3) 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数
- (4) 入学者数、退学者数、除籍者数、中退者数、中退率及び留年者数の推移
- (5) 社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数
- (6) 卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率及び進学者数他
- (7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
- (8) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準
- (9) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
- (10) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

3. 財務情報

- (1) 平成 28 年度財産目録
- (2) 平成 28 年度貸借対照表
- (3) 平成 28 年度資金収支計算書
- (4) 平成 28 年度事業活動収支計算書
- (5) 平成 28 年度事業報告書
- (6) 監事の監査報告書
- (7) 平成 28 年度決算の概要報告
- (8) 平成 29 年度の学生生徒数の状況

1. 教育研究上の基礎的な情報

(1) 学部、学科及びコースの名称

学部名	学科名	コース名	
文化言語学部	文化言語学科	1年生	日本語日本文学コース 現代コミュニケーションコース
		2年生 ～ 4年生	日本文学・日本語コース 書道コース 現代コミュニケーションコース
生活科学部	栄養科学科		

(2) 各学部、学科の教育研究上の目的

<文化言語学部>

現代及び未来を厳しく見据え、文化と言語に力点を置いた教育と研究を展開し、将来の日本社会が必要とする豊かな国際的・文化的感覚を備え、国内外で広く正しく活用し得る言語力を身につけた人材の養成を目的とする。

<生活科学部>

人間の健康と食のあり方を広い視野から深く教育研究することにより、食・栄養に関する先進的な専門知識と実践技術を身につけ、自律性・対話力・考察力を兼ね備えた専門職業人として、栄養教育、栄養管理、食育等を通して、広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(3) 専任教員数等

学部ごとの専任教員数（平成 29 年 5 月 1 日現在）

（単位 人）

学部名	学科名	教授		准教授		講師		助教		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
文化言語学部	文化言語学科	8	1	3	3	1	1	0	1	12	6	18
生活科学部	栄養科学科	2	4	2	4	0	1	1	0	5	9	14
計		10	5	5	7	1	2	1	1	17	15	32

法令上必要な専任教員数（平成 29 年 5 月 1 日現在）

（単位 人）

学部名	専任教員数					設置基準で定める最低専任教員数	
	教授	准教授	講師	助教	計	別表第 1	別表第 2
文化言語学部	9	6	2	1	18	10 (5)	10 (5)
生活科学部	6	6	1	1	14	12 (6)	
計	15	12	3	2	32	32 (16)	

備考	1.「設置基準で定める専任教員数」欄の「別表第1」は、大学設置基準第13条別表第1「学部の種類及び規模に応じ定める専任教員数」の「イ」に基づく教員数を表す。 2.「設置基準で定める専任教員数」欄の「別表第2」は、大学設置基準第13条別表第2「大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数」の備考2に基づく教員数を表す。 3.「設置基準で定める専任教員数」欄に示す教員数の()内は、大学設置基準第13条別表第1のイの備考第1号に定める教授数(専任教員数の半数以上)を表す。
----	--

専任教員の学部ごとの年齢別の構成(平成29年5月1日現在) (単位 人)

学部名	職位	71歳以上	61歳～70歳	51歳～60歳	41歳～50歳	31歳～40歳	30歳以下	計
文化言語学部	教授	0	1	7	1	0	0	9
	准教授	0	0	1	4	1	0	6
	講師	0	0	0	1	1	0	2
	助教	0	0	0	0	1	0	1
計		0	1	8	6	3	0	18

学部名	職位	71歳以上	61歳～70歳	51歳～60歳	41歳～50歳	31歳～40歳	30歳以下	計
生活科学部	教授	0	1	4	1	0	0	6
	准教授	0	0	2	3	1	0	6
	講師	0	0	1	0	0	0	1
	助教	0	0	0	0	0	1	1
計		0	1	7	4	1	1	14

教員一人当たり学生数(平成29年5月1日現在) (単位 人)

学部名	専任教員数 (助手を除く)	収容定員	在籍学生数					教員一人当たり 学生数	
			1年	2年	3年	4年	計	収容定員 基準	在籍学生 数基準
文化言語学部	18	300	43	48	47	68	206	16.6	11.4
生活科学部	14	300	81	78	81	73	313	21.4	22.4
合計	32	600	124	126	128	141	519	18.8	16.2

収容定員充足率(平成29年5月1日現在) (単位 人)

学部名	収容定員	在籍学生数					収容定員充足率 (%)
		1年	2年	3年	4年	計	
文化言語学部	300	43	48	47	68	206	68.7
生活科学部	300	81	78	81	73	313	104.3
合計	600	124	126	128	141	519	86.5

専任教員と非常勤教員の比率(平成29年5月1日現在) (単位 人)

学部名	専任教員数	専任教員 による担当	非常勤教員 による担当	専任と非常勤の 比率(%)

		授業科目数	授業科目数	専任	非常勤
文化言語学部	18	180	72	71	29
生活科学部	14	63	61	50.8	49.2
計	32	243	133	65	35

(4)校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

校地・校舎の概要

本学は熊本市及び菊陽町に武蔵ヶ丘と九品寺2つのキャンパスを有している。

武蔵ヶ丘キャンパスは熊本市中心部から車で30分程の熊本市北東部のベッドタウンに位置し、大学の文化言語学部、短期大学部（幼児教育学科）及び幼保連携型認定こども園がある。キャンパスの周辺は閑静な住宅街と豊かな自然環境に囲まれており、また、キャンパスの中央には手入れの行き届いた庭園が配置され、学生の憩いの場となっている。武蔵ヶ丘キャンパスの校舎配置図は図1に、校舎の概要は表1に示すとおりである。

一方、九品寺キャンパスは熊本市の中心部に位置しており、学園本部、大学の生活科学部、短期大学部（総合生活学科、食物栄養学科）、高等学校及び中学校がある。九品寺キャンパスの校舎配置図は図2に、校舎の概要は表2に示すとおりである。

校地面積は38,943㎡で大学設置基準上必要な面積（7,000㎡）の約5.6倍を確保している。また、校舎面積は16,812㎡で大学設置基準上必要な面積（6,610㎡）の約1.8倍を確保している。

運動場・体育施設

文化言語学部のある武蔵ヶ丘キャンパスには体育館、運動場及びプールがある。体育館のメインアリーナはバスケットボールコートを2面とれる広さがあり、その他に卓球場や多目的ホール、部室棟などの設備がある。武蔵ヶ丘キャンパスの体育館、運動場及びプールは、いずれも短期大学部（幼児教育学科）との共用である。一方、生活科学部のある九品寺キャンパスには、敷地内に短期大学部や高等学校などの校舎があり平成25年1月にイベント等を行うことができる尚綱アリーナが完成した。

課外活動の状況及びその施設

本学では、学生会を組織し、新入生歓迎会、七夕祭（文化言語学部）、学園祭などの学生による自治活動を行っている。これら学生会の活動は学生支援委員会並びに学生支援課で支援しており、年2回の学生役員会並びに学生総会には学生支援委員が陪席している。また、課外活動への支援・指導は各クラブ顧問によって行われ、相談窓口には学生支援課がある。課外活動は文化言語学部がある武蔵ヶ丘キャンパス9団体（SLC（サービスマーケティングクラブ）、韓国語クラブ、写真部、書道部、茶の湯同好会（部）、中国語研究クラブ、美術部、文芸部、学び隊）がある。生活科学部がある九品寺キャンパスで6団体（食育LAB、九品寺献血サークル、くまもと名所情報発信、バスケットボール同好会、食品研究同好会、ヘルシーレシピ研究会）がある。毎年、学生の保護者等で構成する後援会より助成金を支給している。

課外活動施設については、武蔵ヶ丘キャンパスでは体育館の空き時間などを利用し、部室については短期大学部と共用の課外活動部室10室と大学1号館内に美術部室、書道部室、学生会室がある。九品寺キャンパスでは、平成24年度に大学6号館が新設されたのに伴い1階部分に学

生会室及び部室が設けられた。

休息を行う環境、その他の学習環境

文化言語学部のある武蔵ヶ丘キャンパスには、短期大学部の幼児教育学科と共用の学生食堂があり、席数は400席弱で学生同士の談話や自習の場としても広く活用されている。また、大学1号館の学修支援センターにはパソコンも設置し、自習や会合等に利用されている。構内に多くの木々が植樹されており、特に1号館と2号館に面する前庭には芝生が張られ、季節を感じさせる樹木がバランスよく配置されている。

一方、生活科学部がある九品寺キャンパスでは、1号館1階に学生食堂が設置されており、安価な価格設定もあって、昼休みには多くの学生でにぎわう。なお、学生食堂は常時学生に開放されており、昼食時間帯以外は、学生の談話スペースや自習スペースとして活用されている。なお、4号館1階学生ホールにはパソコン10台を設置し、自習の場として利用している。なお、コンビニエンスストアが学生食堂に隣接する形で設置されており、筆記具などの文具をはじめ、弁当・お菓子・カップラーメン・ドリンク・雑誌などの幅広い品揃えで学生に好評を得ている。

図1 武蔵ヶ丘キャンパス校舎配置図

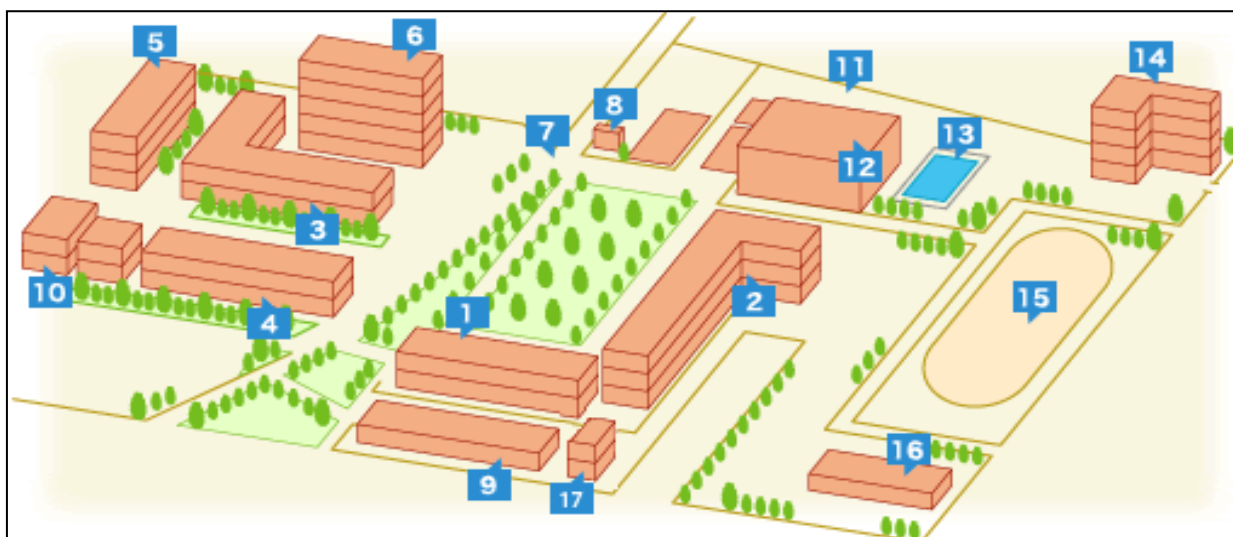


表1 武蔵ヶ丘キャンパス校舎概要

1	大学1号館	1F 第1～第4講義室、学生会室 2F 研究室、第5、第6講義室、美術室 3F 第7、第8講義室、研究室					
2	大学2・3号館	1F 第3演習室、第9～第12講義室 2F 図書館分館 3F 情報処理教室、生物学教室					
3	短大1号館	1F 図工教室、研究室、学生会室、学生支援課、就職課、学生ホール 2F ピアノ個室、音楽教室、研究室、リトミック室					
4	短大2号館	1F 第1～第3講義室、実習指導室、研究室、雑誌閲覧室 2F ピアノ個室、第5講義室、パソコン自習室、研究室、視聴覚室					
5	短大3号館	1F 調理実習室 2F 第6講義室 3F ピアノ個室					
6	管理棟	1F 事務室、保健室、応接室 2F 講師控室、役員室、学長室、尚綱子育て研究センター、地域連携推進センター、カウンセリング室 3F 研究室、卒論演習室 4F 会議室、研究室 5F 大講義室					
7	正門	8	守衛室	9	学生食堂・売店 学生ホール、茶室	10	短大ロッカー室
11	駐輪場	12	体育館	13	プール	14	如蘭学寮
15	グラウンド	16	こども園園舎	17	大学ロッカー室		

図2 九品寺キャンパス校舎配置図

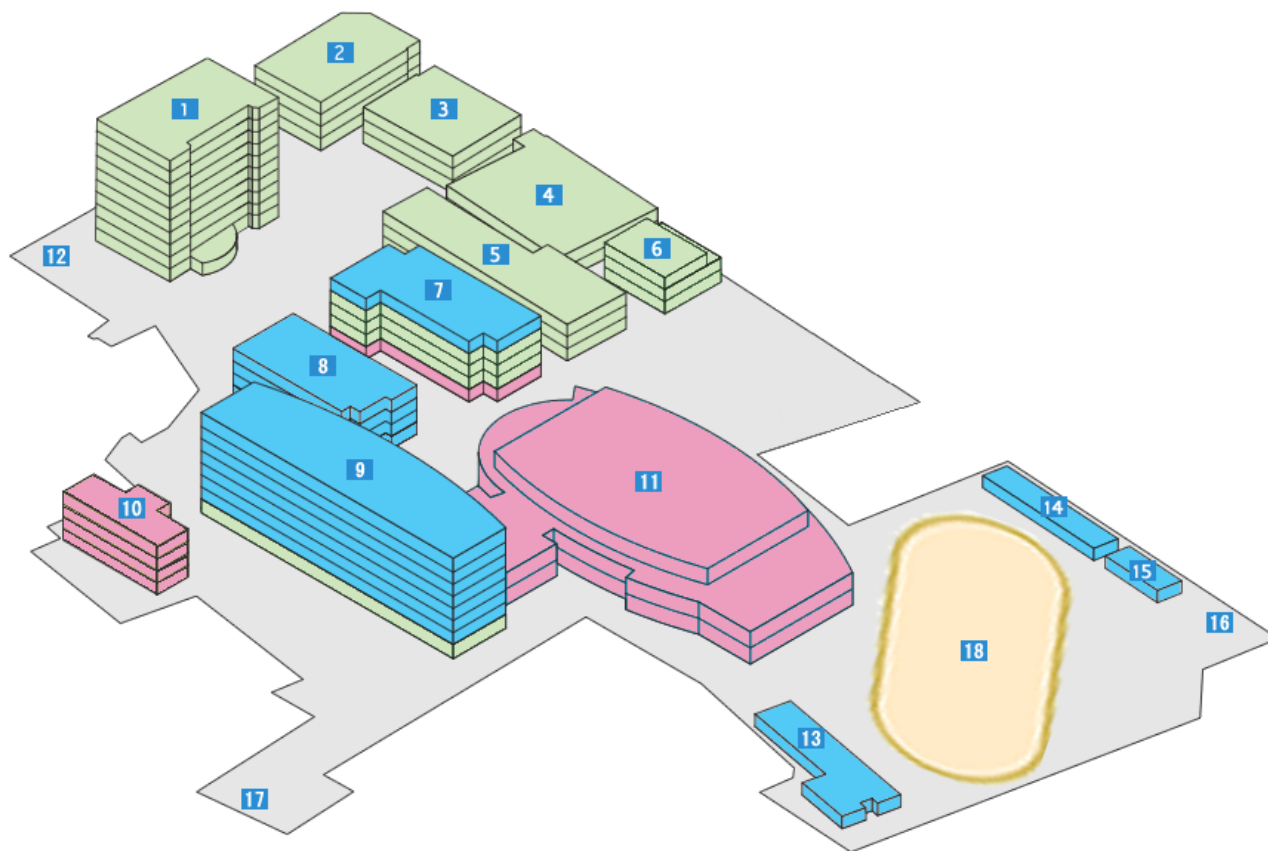


表2 九品寺キャンパス校舎概要

1	1号館	1F 学生食堂・売店 2F 大学事務局長室、1201号室、カウンセリング室、保健室、尚綱食育研究センター 3F 1301号室、1302号室、大会議室、小会議室 4F 栄養調理実習室、更衣室 5F 栄養教育実習室、リフレッシュルーム、卒業研究室 6F 臨床栄養実習室、食品加工・食品学実習室 7F 精密機器室、卒業研究室 8F 教員室 9F セミナー室、教員室 10F 大講義室						
2	2号館	1F 給食経営管理実習室、試食室 2F 解剖生理病理臨床栄養研究室、共同実験室 3F 情報処理教室 4F 講堂						
3	3号館	BF 地下会議室 1F 入試センター、講師控室、学生支援課、就職課、就職資料室 2F 3201号室、3202号室 3F 3301号室						
4	4号館	1F 第2調理実習室、学生ホール、尚綱サポートセンター 2F デザイン演習室、衣服実習室、研究室						
5	5号館	BF 卓球室、学生ロッカー室 1F 事務室、第3調理実習室 2F 学長室、大学企画室、5201号室、染色実習室、研究室、会議室 3F 生化学・食品化学実習室、食品衛生・解剖生理実習室、研究室						
6	6号館	1F 食品加工実習室、学生会室、クラブ部室 2F 6201号室、6202号室、研究室						
7	学園管理棟	BF 会議室、和室 1F 学園事務局、理事長室、常務理事室、会議室 2F 管201号室 3F 管301号室、管302号室 4F 管401号室、管402号室 5F 管理棟5階ホール						
8	中高校1号館	中高校事務室、校長室、職員室他						
9	中高校2号館	1F 図書館本館 2F 中高校図書館 3F~8F 中高校教室他	10	尚綱学舎 (セミナーハウス)	11	尚綱アリーナ	12	正門

13	弓道場	14・15	部室棟	16	北門	17	南門	18	グラウンド
----	-----	-------	-----	----	----	----	----	----	-------

情報サービス施設

武蔵ヶ丘キャンパス、九品寺キャンパスともに情報処理教室が設置されている。座席数は武蔵ヶ丘キャンパスの情報処理教室が 84 席、九品寺キャンパスの情報処理教室が 90 席である。また、学生用パソコン 2 台の間に中間モニターを設置し、教員用パソコンから画面情報や資料などを表示させて、学生が講義内容を理解するのに役立っている。いずれのキャンパスの情報処理教室も可動式のパーティションを設置しているため、教室を分割して利用することも可能である。

情報処理教室は、授業のない時間帯には学生に開放しており、学生は自習室として利用することも可能である。

その他の情報サービス施設としては、武蔵ヶ丘キャンパスにおいては、就職資料室に 5 台、図書館に 10 台、学生ホールに 4 台のパソコンを、また、九品寺キャンパスにおいては、就職資料室に 5 台、図書館に 12 台、学生ホール 10 台のパソコンを学生用に設置している。

図書館

「尚綱大学図書館」は、九品寺キャンパスの「本館」と武蔵ヶ丘キャンパスの「分館」からなる、大学及び短期大学部専用の図書館である。本館と分館の規模及び蔵書数を表 3 と表 4 に示す。

表 3 図書館の規模

図書館の名称	面積 (㎡)			学生閲覧室の座席数 (a)	学生収容定員 (b)	収容定員に対する座席数の割合 (%) (a) / (b) × 100	備考
	全体	閲覧スペース (内数)	書庫スペース (内数)				
尚綱大学図書館本館	1,246	724	223	64	660	9.7	生活科学部 300 名 短期大学部 360 名
尚綱大学図書館分館	894	239	485	100	600	16.7	文化言語学部 300 名 短期大学部 300 名
計	2,140	963	708	164	1,260	13.0	

表 4 図書館の蔵書数 (平成 29 年 5 月 1 日現在)

図書館の名称	図書の冊数 (冊)		定期刊行物の種類		視聴覚資料の所蔵数 (点数)	電子ジャーナルの種類 (種類)
	図書の冊数	開架図書の冊数 (内数)	内国書	外国書		
尚綱大学図書館本館	125,458	82,578	616	28	1,782	0
尚綱大学図書館分館	104,856	99,511	1,722	52	3,963	0
計	230,314	182,089	2,338	80	5,745	0

<アクセスマップ>

武蔵ヶ丘キャンパス



■尚綱大学・同短期大学部

文化言語学部：文化言語学科 短期大学部：幼児教育学科

■尚綱大学短期大学部認定こども園

■尚綱大学図書館分館

J R	J R 豊肥本線 「武蔵塚駅」下車徒歩 20 分
バス	交通センターBホーム 清水方面行き (新地団地經由泉ヶ丘行き、杉並台行き) 「尚綱大学前」下車徒歩 1 分
タクシー	交通センターより約 25 分

〒861-8538 熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘 2-8-1

T E L 096-338-8840

F A X 096-338-9301

九品寺キャンパス



■尚綱大学・同短期大学部

生活科学部：栄養科学科 短期大学部：総合生活学科、食物栄養学科

■尚綱高等学校

■尚綱中学校

■尚綱大学図書館本館・尚綱中学高等学校図書館

J R ・ バス	J R 鹿児島本線 熊本駅下車 熊本都市バス第一環状線 大学病院方面まわり「尚綱校前」下車、徒歩1分 (逆まわりにご注意下さい)
	市電 (健軍行)「九品寺交差点」下車、徒歩1分
タクシー	交通センターより10分

〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78

T E L 096-362-2011

F A X 096-363-2975

(5)授業料、入学料その他の大学が徴収する費用（平成 29 年度）

学科名	入学金	授業料	施設設備資金	初年度合計
文化言語学科	220,000 円	620,000 円	220,000 円	1,060,000 円
栄養科学科	220,000 円	700,000 円	320,000 円	1,240,000 円

※ 入学金は初年度のみ、納付となります。

※ 授業料、施設設備資金は年額であり、前期、後期に分納できます。

※ 各種免許、資格取得希望者の学外実習に要する費用、実験実習費、その他保険料（傷害、賠償責任）が別途必要です。

※ 既納の納付金等は、事由のいかんを問わず返却いたしませんのでご注意ください。

ただし、入学金を除く納付金は、入学する月の前月末日までに、文書（本学所定）で入学辞退による返還を求めた場合に限り返却します。

※ 一般入試及び大学入試センター試験利用入試ですでに入学手続きを済ませて、他の学部や学科をもう一度受験して合格した場合、入学金の振替ができます。

(6)教材購入費

本学においては、学生生活 4 年間の必要経費として、授業料、施設設備資金、実験実習費及び傷害保険料等の雑費の他、教科書等の教材費が必要である。その額は、授業内容等により年度によって必要額が異なってくるが、4 年間でおよそ以下のとおり見込まれる。

文化言語学部・・・・・・約 33 万円程度

生活科学部・・・・・・約 40 万円程度

2. 修学上の情報等

(1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績

[文化言語学部（ホームページ／教員紹介）](#)

[生活科学部（ホームページ／教員紹介）](#)

(2) 3つのポリシー

①入学者に関する学生受入方針（アドミッションポリシー）

<文化言語学部>

《平成 29 年度》

文化言語学部は、文化、言語、コミュニケーションについて理解を深め、それらを活用し地域社会や国際社会で活躍したい学生を求めています。

具体的には、コース別に次のような人を求めています。

日本語日本文学コース

(1) 日本文学、日本語・日本語教育、書道文化に興味のある人

(2) 本コースで学んだ日本文学、日本語・日本語教育、書道文化に関する専門知識を活かし、
国語・書道教員、司書、企業人といった形で社会に貢献したい人

(3) 日本の伝統文化や現代文化に興味があり、これらを学ぶことで、国際的な相互理解に貢献できる人

現代コミュニケーションコース

- (1) 社会に求められている実践的なコミュニケーション力を身につけたい人
- (2) 英語・中国語・韓国語を基礎から実践的レベルまで学び、国際社会で活躍したい人
- (3) 熊本について学び、地域に貢献したい人
- (4) ビジネス社会で活躍したい人

入学を希望する人は、文化や言葉について深く学ぶために、高等学校等においては、国語、英語、社会などの基礎学力を習得していることを望みます。

《平成 30 年度以降》

現代文化学部は、高度な日本語運用能力、多様な文化と社会に関する知識を身につけた上で、高度情報化とグローバル化が進行する日本社会に貢献できる人材を育成することを目指し、次のような学生を求めます。

- (1) 日本の表現文化に興味がある人
- (2) 現代的な情報技術に基づいたメディアコミュニケーションに興味がある人
- (3) 国際交流や、国内外の様々な地域文化に関心がある人
- (4) 観光を通じて、地域社会や地域文化の発展に貢献したい人

入学を希望する人には、高等学校等において、国語・英語を中心とした基礎学力（知識・思考力・判断力・表現力）を習得し、高等学校等における活動などを通じて主体的かつ協働して物事に取り組む力を身につけていることを望みます。これらに関する能力は、入学後の講義、演習等において、問題解決力およびアクティブ・ラーニングにおいて様々な課題を教員・他の学生と協働して探究・解決する力を本格的に育成するために必要となります。

入学者の選抜方法として、一般入試、大学入試センター試験利用入試、推薦入試、自己推薦入試、AO 入試を採用し、上記のような能力や資質を多面的・総合的に評価します。

・一般入試では、国語や英語の筆記試験において基礎学力・技能や思考力・判断力・表現力、面接において主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。

・大学入試センター試験利用入試では、国語や外国語において基礎力・技能や思考力・判断力を総合的に評価し選抜します。

・推薦入試では、小論文において思考力・判断力・表現力、調査書や面接において基礎学力・技能と共に主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。

・自己推薦入試では、自己推薦書において基礎学力・思考力・判断力・表現力・技能、調査書や面接において基礎学力・技能と共に主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。

・AO 入試では、授業体験において思考力・判断力・表現力、面談とエントリーシートにおいて基礎学力・技能と共に主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。

<生活科学部>

生活科学部は、健康の保持・増進や疾病の予防・治療を目的にした栄養指導、医療・福祉・教

育分野での栄養管理、食育、食品の研究・開発などに強い関心を持ち、食・栄養の専門家としての高度な知識・技能の修得と、管理栄養士の国家資格取得を目指して努力し、優れた見識・国際感覚・豊かな人間性を身につけたいという意欲が強い学生を求めます。

具体的には、次のような意欲にあふれた人を求めます。

- (1) 管理栄養士養成カリキュラムの履修に必要な基礎学力を持ち、主体的に勉学を遂行できる人
- (2) 管理栄養士として社会に貢献しようと考えている人
- (3) 食と健康に関する現代的テーマに、強い探究心をもって取り組もうと考えている人
- (4) 生物学・化学などの生命科学に興味があり、専門的な真理を探究する意欲を持つ人
- (5) 他の専門職との連携やチームワークに必要な協調性を持つ人

入学を希望する人には、高等学校等において、生物、化学、物理、数学など、生命科学を学ぶための基礎知識や思考力・判断力を習得し、主体的に他者とのコミュニケーションを円滑に行うために国語や英語の基礎学力を身につけていることを望みます。これらに関する能力は、入学後の講義、実験・実習、演習等において、他の学生と協働して様々な課題を探求・解決する能力を育成するために必要となります。

入学者の選抜方法として、一般入試、大学入試センター試験利用入試、推薦入試、編入学試験を採用し、上記のような能力や資質を多面的・総合的に評価します。

- ・一般入試では、国語、英語、生物基礎、化学基礎の筆記試験において基礎学力・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に評価し選抜します。
- ・大学入試センター試験利用入試では、国語、外国語、数学、理科において基礎学力・技能、思考力・判断力を総合的に評価し選抜します。
- ・推薦入試では、調査書及び口頭試問において一般教養や生物基礎、化学基礎の分野から基礎学力・技能を総合的に評価し選抜します。
- ・編入学試験では、栄養士養成専門教育に関する分野から、基礎学力、思考力・判断力・表現力を総合的に評価し選抜します。

②教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

<文化言語学部>

文化言語学部は、学則に掲げる目的に基づき、文化と言語を重視した教育と研究を行い、現代社会に有為な人材の育成を目指して、教養教育と専門教育の連携及び資格取得の科目を系統的に展開できるように、以下のような方針でカリキュラムを編成します。

- (1) 教養教育科目は、幅広く深い教養を身につけるために、教養基礎・文化・社会・科学・体育・外国語の6つの科目領域を設け、現代の社会人として求められる多様な基礎知識を修得できるカリキュラムを設定します。また、低年次からキャリアデザイン科目を充実させ、学生一人一人が、女性として自らの夢を実現する力を身につけられるようサポートします。
- (2) 教養教育科目は、主に1,2年次に履修し、より高度な教育内容（教養教育科目、専門教育科目）を段階的に学修できるように設定します。教養科目でも1年次からゼミナール形

式の教育を行うことで、大学生としての基礎力やコミュニケーション力を培うとともに、専門教育の学修に必要なアカデミックスキルの修得を目指します。

- (3) 専門教育科目は、日本語日本文学、現代コミュニケーションの各コースで専門分野について体系的に深く学べるように科目を編成します。各コースの特性や学修目標に応じて、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」の区別を設け、専門学修の成果として、全員が卒業研究に取り組むことができるように設定します。
- (4) 専門での学修に加え、教職課程（中学国語・高校国語・高校書道）、司書課程（司書・司書教諭）、日本語教員養成講座を設け、また、秘書士・上級秘書士・情報処理士の資格が取得できる科目を設定し、社会の即戦となるための力を養います。コース別に以下のようなカリキュラムを編成します。

【日本語日本文学コース】

- (1) 専門の日本語学、日本語文学、漢文学だけでなく、書道をはじめとする日本の伝統・文化を理解する力を身につける科目や、学際的で幅広い視野をもって履修できる科目を設定します。
- (2) 日本語学、日本語文学、漢文学、日本語教育について概論や文学史のような基礎的科目を踏まえたうえで、専門的な科目（講義・講読・演習）への履修を配置します。
- (3) 各講義・演習等を踏まえたうえで、深く学修する分野を選択して「卒業論文」の作成に至る構成となっています。卒業論文指導も毎週の指導に加え、中間発表会（複数回）、卒業論文要旨発表会を行い、後輩にも参考になるような指導を行います。
- (4) 学科の専門教育と連動する形で、教員免許状（中学国語、高校国語、高校書道）を修得する教職課程や、日本語教員養成講座のほか、図書館司書、司書教諭、秘書士、情報処理士といった資格取得のための科目群を設置します。

【現代コミュニケーションコース】

- (1) 実践的なコミュニケーション力を身につけるために、4つの領域「社会理解」「サービスラーニング」「情報・ビジネス」「日本語・外国語」に重点を置きます。
- (2) 現代の社会や異文化について理解し専門的知識を習得するために「社会理解」領域の科目を配置するとともに、「サービスラーニング」領域の科目で体験型授業を採り入れ、社会における課題を自ら発見し解決に取り組む能力を段階的に培います。
- (3) 「情報・ビジネス」領域の科目では、現代社会に対応できるスキルや専門的知識を修得するばかりでなく、ビジネス実務士や上級秘書士、上級情報処理士などの資格取得に繋がります。
- (4) 社会で求められている日本語表現力を高めるとともに、外国語（英語・中国語・韓国語）の基礎を固め、さらに高度な実践的運用力を修得することを到達目標とし、「日本語・外国語」領域で科目を体系的に配置します。

《平成 30 年度以降》

現代文化学部は、学則に掲げる目的に基づき、高度情報化とグローバル化が進行する日本社会・文化に関する調査・分析能力を育成すべく、以下のような方針でカリキュラムを編成します。

- (1) 教養教育は、情報処理、統計学、外国語科目、日本語運用力関連科目を提供し、大学での学びおよび社会での必要とされている基本スキルを育成します。

- (2) 専門教育科目は、教養教育科目からの橋渡しになる科目として 1 年次から専門導入科目を置きます。
- (3) 2 年次後期からは、共通実践科目および実践外国語科目、さらに文化を様々な角度から分析する視座を確立する 4 つの領域（文芸文化領域、情報メディア文化領域、日本・東アジア社会文化領域、観光文化領域）を設けます。
- (4) 共通実践科目は、高度情報化とグローバル化が進行する地域社会・文化の問題を発見し、協働してその解決を提供する能力を育成することを目的とした科目群であり、基本的に、アクティブ・ラーニング科目によって構成します。
- (5) 実践外国語科目は、実践的な外国語運用能力育成を目的とします。
- (6) 文化を様々な角度から分析する視座を確立する領域として文芸文化領域、日本・東アジア社会文化領域、観光文化領域、そして情報メディアおよび現代的なサブカルチャーに関する分析能力を育成する情報メディア文化領域の 4 つの領域を置きます。
- (7) 文化理解の視座を確立することを目的とする 4 領域に関しては、卒業後の進路に応じて、2 つの領域を組み合わせた形で学修を提供すべくデザインします。
- (8) 卒業研究に関しては、各領域から 1 名ずつの指導教員を配置し、多面的な見方から文化を分析する能力を育成します。

<生活科学部>

生活科学部は、学則に掲げる目的に基づき、ディプロマポリシーで示す能力を修得させるため、以下のような方針でカリキュラムを編成します。

- (1) 初年次教育として、学修技術や自主的思考力を身につけ、かつ、汎用的技能や専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけるための教育科目を設置し、大学教育への円滑な導入を図ります。
- (2) 幅広く深い教養を培い、豊かな情操や高い倫理観を涵養するために、「教養教育科目」を設置します。
- (3) 管理栄養士に必要な高度な専門的知識・技能を育成するために、「専門教育科目」（専門基礎分野及び専門分野）を段階的、系統的に展開します。また、適切な態度・倫理観、さらにそれらを背景としたコミュニケーション力を育成するために、実験・実習・演習を体系的に配置します。
- (4) 栄養士・管理栄養士としての創造的思考力・判断力、社会性、協調性を育成するために、専門的知識と技能の統合的・実践的学修の場として、「管理栄養士総合演習」「臨地実習」「卒業研究」を設置します。
- (5) 栄養教諭（一種）が備えるべき教育学的見識と十分な指導・教育力を育成するために、教養教育および専門教育と連動するかたちで、教育職員免許状取得を目指す教職課程を設置します。

③学位授与の方針（ディプロマポリシー）

<文化言語学部>

文化言語学部は、建学の精神のもと、教育研究の目的に則り、コース別に以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、「学士（文学）」の学位を授与します。

【日本語日本文学コース】

- (1) 日本文学、日本文化、書道文化、日本語・日本語教育に関する幅広い知識を身につけ、多文化共生が進む地域社会に貢献できる。
- (2) 日本文学、日本文化、書道文化、日本語・日本語教育に関する専門的な学修を踏まえて、課題を発見し、解決できる。
- (3) 演習や卒業論文執筆を通して、課題解決能力と高度な日本語コミュニケーション力を身につけ、広く社会に貢献できる。

【現代コミュニケーションコース】

- (1) 幅広い教養とグローバル社会に対応できる日本・諸外国の社会・文化・歴史等に関する専門的知識を有し、コミュニケーション力と人間力豊かなリーダーシップを発揮して社会に貢献できる。
- (2) 地域や国際社会の抱える諸問題を発見し、グローバル・グローカル・ローカルな視点での確に分析して解決する方法を提案し、問題解決に参画できる。
- (3) 外国語（英語・中国語・韓国語）の高度な運用の能力を備え、それぞれの言語圏に関する研究と国際交流を通じて幅広い異文化理解力を身につけ、国際的視野に立って活躍できる。

《平成 30 年度以降》

現代文化学部は、建学の精神のもと教育研究の目的に則り、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、「学士（文学）」の学位を授与します。

- (1) 日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。
- (2) 伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。
- (3) 高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。
- (4) 上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。

<生活科学部>

生活科学部は、建学の精神のもと、教育研究の目的に則り、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、「学士（栄養学）」の学位を授与します。

- (1) 幅広い社会的関心と教養を有するとともに、栄養・食品・医療・教育等に関する先進的な専門的知識を修得している。
- (2) 食に関する知識を基盤とした実践的技能を有するとともに、科学的に情報を分析・活用できる能力と、専門的知識や豊かな人間性に基づく優れたコミュニケーション力を身につけている。
- (3) 専門職としての役割を理解し、社会的責任感と倫理観を備え、自主的自律的に研鑽に努めつつ社会に貢献しようとする態度を備えている。
- (4) 積み上げてきた体系的知識・技能及び最新の知見を総合的に捉え、保健・医療・福祉・教育・行政等の専門分野の課題に対して的確な考察・判断を行う能力をもち、専門職業人として他職種との連携のもと、実践に移す能力を身につけている。

(3) 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数

平成 29 年度の学生数の状況（平成 29 年 5 月 1 日現在） (単位 人)

学部・学科名	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
文化言語学部 文化言語学科	75	43	300	206
生活科学部 栄養科学科	70	81	300	313
(生活科学部 3 年次編入学)	10	8		
計	155	132	600	519

(4) 入学者数、退学者数、除籍者数、中退者数、中退率及び留年者数の推移 (単位 人)

年度	学部	入学者数	在籍者数 (A)	退学者数 (B)	除籍者数 (C)	中退率(% (B)+(C) / (A))	留年者数
H26 年度	文化言語学部	49	222	3	5	3.6	3
	生活科学部	78	305	10	1	3.6	6
	計	127	527	13	6	3.6	9
H27 年度	文化言語学部	49	222	3	2	3.6	3
	生活科学部	78	305	6	0	1.9	4
	計	127	527	9	2	2.1	12
H28 年度	文化言語学部	51	216	9	3	5.5	4
	生活科学部	78	308	7	0	2.3	8
	計	129	524	16	3	7.8	12

(5) 社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数

(平成 29 年 5 月 1 日現在) (単位 人)

学部名	社会人学生数					留学生及び海外派遣学生数				
	1 年	2 年	3 年	4 年	計	1 年	2 年	3 年	4 年	計
文化言語学部	0	0	0	0	0	0	0	4	4	8
生活科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0	3	3	6

備考 1. 社会人学生数、留学生数は、それぞれ社会人入試、外国人留学生入試によって入学した学生数である。

2. 文化言語学部の「留学生及び海外派遣学生数」欄 3 年の 1 名は海外派遣学生を表す。

※詳細参照⇒<http://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/international>

(6) 卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率及び進学者数他

平成 29 年 3 月卒業生の進路先決定状況（平成 29 年 5 月 1 日現在） (単位 人)

学部・学科名	卒業生数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学者数	その他 (就職を希望しない)
文化言語学部文化言語学科	42	39	39	100%	0	2
生活科学部栄養科学科	77	73	73	100%	0	4
計	118	112	112	100%	0	6

※詳細参照⇒<http://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/career/data>

(7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

平成 29 年度開講授業科目シラバス

[文化言語学部 \(シラバス\)](#)

[生活科学部 \(シラバス\)](#)

(8) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準

①学修の成果に係る評価

平成 29 年度開講授業科目シラバス

[文化言語学部 \(シラバス\)](#)

[生活科学部 \(シラバス\)](#)

②卒業の認定に当たっての基準 (必修・選択科目別の必要単位修得数)

卒業に必要な最低修得単位数は、次のとおりとする。

(カリキュラム)

<文化言語学部>

コース名	教養教育科目	専門教育科目						小計	合計	
		必修科目	計	領域	選択必修科目	計	選択科目			
日本語 日本文学	34 単位 以上	・ 23 科目 46 単位 ・ 卒業研究 6 単位	52 単位	日本文学	3 科目 6 単位以上	6 科目 12 単位 以上	専門教育 科目の最 低修得単 位である 90 単位 から、必 修及び選 択必修で 修得した 単位を減 じた単位 以上	90 単位 以上	124 単位 以上	
書道		・ 22 科目 36 単位		36 単位	書道					6 科目 9 単位以上
現代 コミュニ ケーション		・ 15 科目 28 単位 ・ 卒業研究 6 単位	34 単位	日本文学、 日本語学・ 日本語教育	5 科目 10 単位以上	7 科目 14 単位以上				
				社会理解、 サビスタニング、 情報・ビジネス	5 科目 10 単位以上					3 科目 6 単位以上
				卒業作品研究又は 卒業研究 6 単位	2 科目 4 単位以上	17 科目 34 単位 以上				

				日本文学及び 日本語学・ 日本語教育	5科目 10単位以上				
--	--	--	--	--------------------------	------------	--	--	--	--

<生活科学部>

区分		必修科目	選択必修科目	選択科目		合計
教養教育科目		13	2	9	17	124
専門教育科目	専門基礎分野	40	2			
	専門分野	41				

③取得可能学位

<文化言語学部>

学士（文学）

<生活科学部>

学士（栄養学）

④学位授与数

卒業年月	学部名	卒業生数 (学位授与数)
H27.3	文化言語学部	63
	生活科学部	69
	計	132
H28.3	文化言語学部	52
	生活科学部	77
	計	129
H29.3	文化言語学部	41
	生活科学部	77
	計	118

(9) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

①修学に係る支援

基礎セミナー

生活科学部では、1年生前期に全員必修で「基礎セミナー」の授業を開設している。本授業は、大学でのまなびへの導入を意図して開講されたものであり、学生が初年次に円滑な大学生活ができるような基本的な生活や学習のスキルを身につけさせ、大学へのまなびに対する興味を喚起し、学習意欲の向上に取り組んでいる。

文化言語学部でも、1年生前期に全員必修で「基礎セミナー」の授業を開設している。本授業は、大学に入学したばかりの学生が大学生活をよりスムーズに始められるようにサポートし、建学の精神や本学の歴史から始まり、授業履修の方法、図書館活用の方法、学生生活をよりよく送るための基礎知識を習得させる。また、武蔵ヶ丘キャンパス周辺を探索し、グループで協力して尚綱アクティブマップを作成させる内容も実施している。

クラス担任制

各学年の学部・学科（コース）単位で担任制を取り入れ、履修相談、学生生活相談、就職・進路相談等に対応している。出欠状況、単位修得状況等を教務課から各担任に適宜知らせ、担任は年度初めの学生との懇談のほか、個人面談でそれぞれの学生の状況を把握し指導・支援するように努めている。また、クラス担任は3年次から就職指導など進路指導にも携わり、学生と密な信頼関係を築くようにしている。

オフィスアワー

文化言語学部では、平成 20(2008)年度から、生活科学部も平成 21(2009)年度から、全専任教員がオフィスアワー（文化言語学部 2 回/週、生活科学部 1 回/週）を設けて学生の質問や相談に応じる体制を導入した。

障害をもった学生の修学の支援

本学では平成 28(2016)年 4 月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する規程」を制定し、教職員が適切に対応するために必要な事項を定め、学修支援体制を整備している。

障がいの程度は、学生ひとり一人に差があるので、学生支援委員が本人及び保護者から配慮すべき事項を確認し、その事項を全教職員に周知徹底することによって、学修支援体制を確立している。

学習スペースの確保

キャンパス内で学生が快適に学べる環境を提供するため、各キャンパス図書館の閲覧室を学習スペースとして開放している。また、学習スペースの利便性を高めるため、本館には個人学習用のキャレルやグループ学習室を新設し、分館ではグループ学習用のスペースと個人学習用のスペースを分離するという工夫を行っている。

作品指導

文化言語学部の書道コースでは、授業時間外での作品指導に取り組んでいる。実技科目においては基本的な技術の習得の上での作品制作が組み込まれており、授業の流れがスムーズに行き、作品制作に対する理解が深まるよう、各種展覧会出品作品指導を中心として行っている。

臨地実習指導

生活科学部では、管理栄養士国家試験受験資格取得のため、3年次及び4年次は学外実習が

義務づけられている。実習期間中、学生は少人数で各学校や施設に配属される。担当教員は実習先の担当者と綿密に相談し、充実した学習成果が得られるように実習の改善に努めている。実習ごとに実習終了時に教員と学生は学内で実習報告と反省会を開き、きめ細やかな指導を行っている。

②進路選択に係る支援

本学では、入学年度から年2回のキャリアガイダンスを実施して、学生の進路選択を早い段階からサポートしている。また、各学部学科の正課のキャリア教育、正課外の就職指導の時間においても、進路選択の指導を行っている。進学も含めて進路選択についてきめ細やかなカウンセリングを教職員で実施している。2017年（平成29年）から就職・進路支援センターを設置し、支援体制を強化している。

③心身の健康等に係る支援

学生の健康面については、学生支援課で毎年度初めに全学生を対象に健康診断を行っている。日々の健康相談は、保健室の養護教諭により行い、毎年「疲労蓄積度調査」を実施し、その結果を学生個人に知らせるとともに、結果によっては保健室及びカウンセラーに相談に行くよう勧められている。

また、心的支援は養護教諭と臨床心理士の資格を持つカウンセラー（非常勤）により行われている。障がいや有する学生に対しては、学生支援委員会部会長、学生支援課長が定期的に面談を行い、状況を把握している。さらにその他の学生の相談には、オフィスアワーを活用して対応している。

④その他学生支援の状況

本学では学生サービス、厚生補導のための組織として学生支援委員会及び各キャンパスに部会を設置し、学生支援課との連携により、学生会行事関係、奨学金関係、健康管理関係、その他福利厚生関係の業務を行っている。

学生に対する経済的な支援として、日本学生支援機構奨学金をはじめとして、地方公共団体や民間団体の奨学金の募集を行い、手続きを行っている。日本学生支援機構奨学金については、年度初めのオリエンテーションで奨学金制度を詳細に説明し応募者を募っている。家庭の事情等の個人情報に十分に配慮しながら、クラス担任による個別面談と学生支援課の担当者による相談や手続きの指導を行っている。最終的な応募者は学生支援委員会で承認を受け申請する。予約奨学生や入学後の新規採用者は年々増加しており、また、家計の急変により2年次や3年次で新規応募する学生も増加している。地方公共団体や民間団体の奨学金については、それぞれの募集案内を掲示し、希望者にそれぞれの制度を説明して応募させている。

さらに、学生への経済的な援助策として、平成26年度に本学独自の「授業料免除制度」を制定した。この制度は、学生としての修学態度が標準に達していると認められる学生にあって、学資負担者が死亡もしくは被災など不慮の事由により授業料の納付が著しく困難であると認められる者又はこれらに準ずる場合で理事長が相当と認める者を対象とし、各学期分の授業料についてその全額又は一部を免除する制度である。

また、平成26年度には「寮費免除制度」を制定した。この制度は、入寮希望の学生が経済的

理由等で修学が困難な場合、寮費の全額を免除する制度である。

また、平成 25 年度には「姉妹入学金減免制度」を制定した。この制度は、本学に入学する 4 月の時点で本学に姉妹が在学している場合、入学金の半額を免除する制度である。

本学では学生サービスに対する学生の意見や要望を把握するため毎年「学生生活に関する実態調査」のアンケートを実施して家庭、経済、学習環境、部活、ボランティアなどの実態と問題点を調査している。アンケート結果は学生支援委員会で各学部・学科別に集計・評価され各学部・学科の教員に配布し、学生支援委員並びに各クラス担任により改善・対応策をとる仕組みになっている。さらに、学内に学生支援委員会による「意見箱」を設置し、施設・設備の学習環境のみならず、学生生活全般に関する学生の様々な意見や要望を汲み上げるようにしている。

⑤社会貢献活動

本学では、地域社会の生涯学習活動に貢献することを目的として、1990 年（平成 2 年）から尚絅大学短期大学部と共同で、夏季休業期間に公開講座を実施している。本年（平成 29 年度）は 10 講座を開設。本年までの 28 回の開催で延べ 1 万 8 千名余の受講者があり、好評を博している。

また、文化言語学部主催の公開講座を 10 月、11 月の土曜日を利用して実施しているが、好評を得て、昨年までの 9 回の開催で延べ 3,200 名余が受講した。本年度も 7 講座の開設を予定している。

(10) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

平成 29 年度開講授業科目シラバス

[文化言語学部（シラバス）](#)

[生活科学部（シラバス）](#)

平成 29 年度カリキュラム

[文化言語学部（ホームページ／各コースカリキュラム）](#)

[生活科学部（ホームページ／カリキュラム）](#)

3. 財務情報

- (1) [平成 28 年度財産目録](#)
- (2) [平成 28 年度貸借対照表](#)
- (3) [平成 28 年度資金収支計算書](#)
- (4) [平成 28 年度事業活動収支計算書](#)
- (5) [平成 28 年度事業報告書](#)
- (6) [監査報告書（平成 28 年度決算）](#)
- (7) [平成 28 年度決算の概要報告](#)
- (8) [平成 29 年度学生生徒数の状況（平成 29 年 5 月 1 日現在）](#)